

2025 年 2 月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは 3 月 8 日（土）で、テーマは「身近な猛禽 トビとミサゴ」です。ぜひご参加ください。3 月 3 日（月）の 8 時 30 分から電話での申し込みを開始します。市民スタッフの皆さま、次回の下見は 3 月 2 日（日）です。

2 月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→水生植物園→手賀沼親水広場横で解散
- 観察日時／天気：2025 年 2 月 8 日（土）10：00～12：00／晴れ
- 参加人数：16 名（大人 11 名、子ども 5 名）
- 市民スタッフ：5 名（伊東茂子、北村章子、小泉伸夫、弘實さと子、湯瀬一栄）
- 博物館友の会：1 名（古澤紀元）
- 鳥博職員：2 名（脇水徳之、望月みずき）

— 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものも含む。

【鳥類】カモ科：ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ／キジ科：キジ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：ヒクイナ、オオバン／シギ科：タシギ／カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：トビ、ノスリ／カワセミ科：カワセミ／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ、ヤマガラ（声）／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス（声）／エナガ科：エナガ／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ツグミ科：シロハラ、ツグミ／ヒタキ科：ジョウビタキ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン

家禽や外来種：コブハクチョウ（カモ科）、ドバト（ハト科）

【爬虫類】ニホンカナヘビ（はやにえ）

【昆虫】カメムシ目：ヨコヅナサシガメ（幼虫）

【草の花】キク科：セイヨウタンポポ、ノゲシ、ノボロギク／シソ科：ホトケノザ／アブラナ科：ナズナ、タネツケバナ／オオバコ科：オオイヌノフグリ／ナデシコ科：オランダミミナグサ

【木の花】ツバキ科：ツバキの仲間

2025年2月の観察アルバム



今回のテーマは「くらべてみよう鳥の体くちばし編」でした。

当日は快晴にも関わらず風が強く、観察できた鳥は少なかった一方で、ミサゴが魚を食べる様子や、タシギが水田の泥をつつく様子、ノスリの捕食の様子など、実際のくちばしの使い方を生で観察できました。



今月の案内人
脇水 徳之



望月みずき



①ツバキの周りに集まっていたメジロ。細長くくちばしで花の蜜を吸う。



②杭の上で魚を食べていたミサゴ。先が曲がったくちばしで肉を引きちぎる。

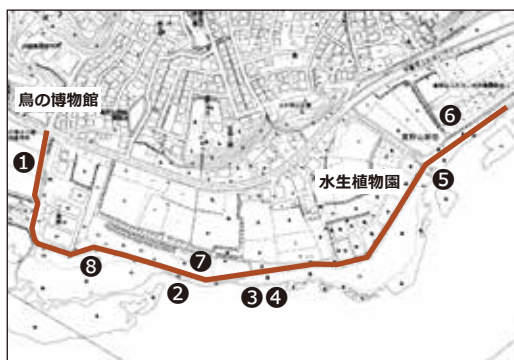


③水中のエサを求めて水中に潜っていたカイツブリ。羽毛が水を弾いている。



④水面付近のヨシに掴まっていたカワセミ。体を縮めて強風を凌いでいた。

歩いたルートと観察した生き物



⑤杭の表面に付着した藻を、くちばしの縁で削ぎ取って食べていたオオバン。



⑥座って植物を食べていたコブハクチョウ。付近にホトケノザが繁茂していた。



⑦遊歩道脇の水路に飛び込んでいたノスリ。捕食に失敗して飛び去っていった。



⑧遊歩道の木にとまっていたモズ。縄張りを巡回している様子を確認できた。

今月の鳥 シギのくちばしと感覚機能

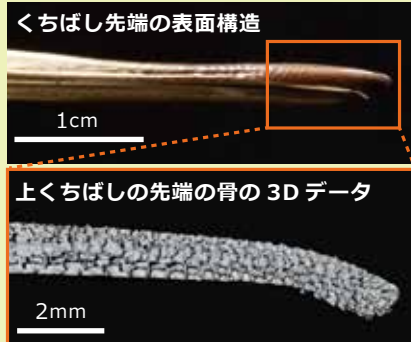
シギの仲間を観察していると、くちばしを何度も土や泥に突き刺してエサを探す様子を見ることができます。

くちばしの骨には、骨の中や表面を走行する血管や神経の経路が凹凸状の構造として残っています。シギの仲間は凸凹の数が非常に多く、触覚が優れていることが分かります。

トキやキーウィのくちばしの骨にも同じような構造が残っており、泥や砂、水中のエサを効率よく探すのに役立っています。



水田の泥にくちばしを突き刺すタシギ



くちばし先端の表面構造

上くちばしの先端の骨の3Dデータ

くちばしの拡大写真と中の骨の様子